

アクリルカチオン系一材型下地調整塗材

一材型  
EG  
タイプ

# A1プライマー・EG

A1プライマー・EGは、特殊セメント系パウダーにアクリルカチオン系特殊粉末樹脂を配合した完全プレミックスの一材型ポリマーセメントモルタルです。弊社の独自技術により、一材型ポリマーセメントモルタル特有のベタツキを解消したことで優れた作業性を有しています。また、コンクリート下地に対して強固な接着力を発揮します。

## 特長

- ▶ 作業性 オールプレミックスタイプのため、現場で適量の水を加えて練り混ぜるだけで使用できます。
- ▶ 施工性 コテ、ハケ、ローラー、吹付の多様な施工方法に対応しています。
- ▶ 接着性 アクリルカチオン系特殊粉末樹脂を豊富に配合しているため、コンクリート・タイル・塗料等の下地への接着性に優れています。※各種下地への接着性は裏面を参照して下さい。
- ▶ 早強性 低温環境においても、20℃環境と同等の初期強度が得られるため、次工程までの養生期間を短くすることができ、工期短縮が可能です。
- ▶ 仮防水 緻密なセメント硬化体と樹脂の造膜により仮防水機能<sup>※</sup>を発揮します。  
※仮防水機能の詳細は、別途資料を参照して下さい。
- ▶ 高品質 JIS A 6916建築用下地調整塗材に規定される、下地調整塗材C-1の品質規格に適合しています。

## 用途

- ▶ 外装仕上げ前の下地調整材として
- ▶ 断面修復材のプライマーとして
- ▶ 防水施工前の不陸調整として

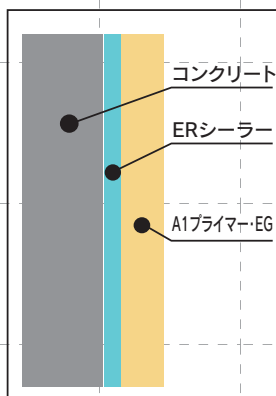
## 配合及び材料使用量

### ● A1プライマー・EG

配合	粉体	15kg	
	施工	ハケ塗り	コテ塗り
	水	5.5~6.0kg	3.8~4.3kg
標準塗厚		0.2~0.7mm	0.2~1.0mm
塗り厚別 材料使用量 (kg/m <sup>2</sup> )	0.2mm	0.25	0.29
	0.7mm	0.87	1.00
	1.0mm	—	1.43
積算比重		1.245	1.425
練上り量		12.05 ℓ	10.52 ℓ
1m <sup>3</sup> 使用量		1245kg (83袋)	1425kg (95袋)

※ローラー及び吹付での施工を行う場合の水量は、ハケ塗り水量を目安にして下さい。

### ● 施工図



### ● 荷姿

・粉体15kg



### ● ERシーラー[新旧打継用エマルジョンプライマー]

ERシーラー	水	m <sup>2</sup> 使用量	施工面積
18kg(1)	27kg(1.5)	0.2kg (積算0.08kg)	225m <sup>2</sup>
4kg(1)	6kg(1.5)		50m <sup>2</sup>

○荷姿 ・18kg缶 ・4kgポリ容器



## 施工要領

### ① 下地処理

脆弱部や付着物の除去、表面研磨、亀裂処理等下地調整材の性能が低下しないように十分な下地処理を行う。

### ② 吸水調整

吸水のある下地に施工する場合、ドライアウトやふくれの可能性があるため、ERシーラーでシーラー処理を行う。標準塗布量は0.20kg/m<sup>2</sup>(ERシーラー1:水1.5)。

※下地の吸水が激しい場合等はこの限りではありません。吸水が収まるまでERシーラーを塗布して下さい。また、タイル面等の吸水のない下地へ施工する場合は、吸水調整の必要はありません。

### ③ 混練

規定量を計量し、ハンドミキサーやモルタルミキサーで混練する。

攪拌時間の目安は2~3分程度※とする(低速ミキサー推奨)。

材料が均一になったら過度の攪拌はしない。

攪拌時間はミキサーの種類、回転数や混練量等により調整する。

※低速ミキサー使用、混練量1/2~1袋以上の場合。

### ④ 施工

ERシーラーが指触乾燥したことを確認し、A1プライマー・EGを施工する。

コテによる塗り付けは、コテ圧をかけて下地にしごき付けてから、所定の厚みに塗り付ける(最大施工厚1mm)。

モルタルの締り状態を確認し、適宜に金コテを用いて表面を平滑かつ緻密に仕上げます。

### ⑤ 養生

風雨や直射日光を避けて1日以上養生する。

※施工後に断面修復を行う場合には、指触乾燥後に施工して下さい。

※施工後に仕上材を施工するまでの養生期間は、水系仕上材の場合1日以上、溶剤系仕上材の場合3日以上として下さい(5℃以上環境下)。

## 性能

試験項目	試験結果	品質基準 (JIS A 6916-2014)	
		下地調整塗材 C-1	
軟度変化 (%)	8	-20~20	
耐ひび割れ性	ひび割れなし	ひび割れがない	
耐衝撃性	ひび割れ及び剥がれなし	ひび割れ及び剥がれがない	
付着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	標準養生時	2.7	0.7以上
	低温養生時	1.7	0.5以上
吸水量 (g)	0.5	2.0以下	
仕上材が複数 仕上塗材の場合の 耐久性 (N/mm <sup>2</sup> )	表面状態	割れ、膨れ及び剥がれなし	割れ、膨れ及び剥がれがない
	付着強さ	2.0	1.0以上

試験機関：(一財)日本塗料検査協会 西支部

注)上記は試験値であり、品質保証値ではありません。

各種下地への接着性	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	破壊位置
コンクリート	2.4	A1・EG内部
鉄	1.9	界面
タイル	2.0	A1・EG内部
ウレタン塗料	1.9	界面
エポキシ塗料	2.0	A1・EG内部
アクリル塗料	1.9	A1・EG内部

注) 接着体の材質、表面状態によって強度が低下することがあります。

## ●使用上の注意

- ・ご使用に際してはSDS(安全データシート)をよく読んで下さい。SDSの入手は購入先にご依頼下さい。
- ・本製品は粉末樹脂およびセメント系無機質粉末の組み合わせで形成されています。製品中のセメント成分の性質上、現場条件によっては白華現象(含有成分の析出)が起こる可能性がありますので、施工後は結露・雨水等の水分が付着しないように適切な養生を行って下さい。
- ・シーラー処理が不十分であるとドライアウトやふくれの防止ができないことがあります。特に、吸水の激しい下地についてはERシーラー塗布・乾燥後に水を吹きかけて、すぐに吸水しないことを確認して下さい。
- ・製品は直射日光、湿気を避け5~35℃で保管して下さい。
- ・防錆仕様の場合は、1袋につき400gのアルカード(亜硝酸リチウム水溶液)を配合して下さい。その際は混練水量の調整が必要となります。
- ・高温時、練上がり温度は35℃以下(望ましくは30℃以下)になるように冷水等で調整して下さい。
- ・長時間の直射日光が当たる場合や強風の場合はシート養生を行って下さい。
- ・気温が5℃以下になる場合は施工を避けて下さい。
- ・低温時、凍害の恐れがある場合には採暖や養生シートなどで養生を行って下さい。
- ・混練にアルミ製の羽根は使用しないで下さい。
- ・混練に高速ミキサーを使用した場合は、エアの巻き込みにより強度が低下することがあります。
- ・練り始めは、配合された粉末樹脂が再乳化するまでに時間がかかるため硬い性状を示しますが、混練により粉末樹脂が再乳化すると次第に軟らかい性状に変化します。過度に混練水を追加しないようご注意ください。
- ・練り水は水道水水質と同等のものを使用して下さい。不純物が硬化時間等に影響することがあります。
- ・開封した製品は、即日中に使い切るか、余った場合は、ビニール袋等に密封し、開封後一週間以内に使用して下さい(性能低下の恐れがあります)。
- ・廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して下さい。

## ●本資料について

- ・本資料の技術情報は、当社の試験・研究に基づいたもので、信頼しうる情報と考えられます。しかし、記載の諸性能及び特性などは、施工条件などにより本資料と異なる結果を生じることがあります。
- ・本資料の記載事項は、予告なしに変更する場合がありますので、予めご了承下さい。

代理店



特殊セメントの分野を大きくリードする

**エレホン・化成工業株式会社**  
EREWHON

<http://www.erewhon.co.jp/>

●本社・工場	〒870-0141	大分県大分市三川新町1-2-23	TEL (097) 552-2251	FAX (097) 552-2213
●いわき工場	〒979-3112	福島県いわき市小川町上平字中平30-3	TEL (0246) 83-2600	FAX (0246) 83-2677
●大阪支店	〒532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原5-1-3	TEL (06) 6842-7500	FAX (06) 6842-7544
●福岡支店	〒814-0151	福岡県福岡市城南区堤1-9-10	TEL (092) 874-6990	FAX (092) 862-6398
●関東支店	〒224-0003	神奈川県横浜市都筑区中川中央2-5-13-3F	TEL (045) 534-9656	FAX (045) 534-9657
●仙台支店	〒984-0012	宮城県仙台市若林区六丁の目中町6-2	TEL (022) 287-7221	FAX (022) 287-7222
●名古屋支店	〒463-0048	愛知県名古屋守山区小幡南3-5-21	TEL (052) 758-1889	FAX (052) 758-1890
●札幌営業所	〒007-0805	北海道札幌市東区東苗穂5条3-2-32	TEL (011) 786-6051	FAX (011) 786-6052
●新潟営業所	〒950-0963	新潟県新潟市中央区南出島1-10-23	TEL (025) 280-9282	FAX (025) 283-6262
●静岡営業所	〒422-8058	静岡県静岡市駿河区中原743-1-1F	TEL (054) 270-9380	FAX (054) 270-9381
●北陸営業所	〒920-0027	石川県金沢市駅西新町2-11-25	TEL (076) 204-9417	FAX (076) 204-9418
●広島営業所	〒739-1731	広島県広島市安佐北区落合2-41-22	TEL (082) 841-2350	FAX (082) 841-2360
●熊本営業所	〒861-8045	熊本県熊本市東区小山2-14-47	TEL 050-3399-7419	FAX (096) 388-6227
●鹿児島営業所	〒890-0082	鹿児島県鹿児島市紫原1-51-25	TEL (099) 284-0533	FAX (099) 284-0535
●㈱エレホン・技研本社	〒781-0270	高知県高知市長浜5226-13	TEL (088) 805-2332	FAX (088) 841-2322
●㈱エレホン・技研山山営業所	〒791-8042	愛媛県松山市南吉田町1450-6	TEL (089) 974-8225	FAX (089) 974-8230